

中 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究の視点	3
IV	研究仮説	3
V	研究方法及び内容	3
1	基礎研究	3
2	調査研究	4
3	検証授業	6
VI	研究の成果と課題	24

運動の楽しさや必要性を実感させ、 関心・意欲を引き出す指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）では、現行の学習指導要領における保健体育科の成果として、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まったこと、体力の低下傾向に歯止めが掛かったことを挙げている。一方、課題としては、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること、体力の低下傾向に歯止めが掛かっているものの、体力水準の高かった昭和 60 年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られることなどを挙げている。

そして、新中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省 平成 29 年 7 月）では、保健体育科の目標の改訂について、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育むことが大切であることを強調したものである。」としている。

また、東京都教育委員会では、平成 22 年度に「総合的な子供の基礎体力向上方策」を策定し、長期的に低下傾向にある子供の体力向上に向けて取り組んでいる。その結果、小学校においては、全体的に体力は向上傾向を示しており、体力合計点の平均値は全国平均値を上回るまで向上している。一方、中学生の体力は都道府県別で依然として男女ともに最低水準である。このことを踏まえ、平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間の総合的な子供の基礎体力向上方策（第 3 次推進計画）を「アクティブプラン to 2020」として策定し、学校体育・スポーツの充実に努め、特に中学校の体力向上を重要課題として取組を推進している。

本研究では、全ての生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するためには、運動が得意な子とそうでない子の二極化傾向を改善することが必要であると考えた。

運動が苦手な生徒が主体的に運動に親しむためには、保健体育の授業を通して、運動の楽しさや必要性を実感させ、関心・意欲を育むことが大切である。技能が向上する喜びや運動自体の楽しさを感じながら、仲間との対話的な活動を通して、運動技能や心身の健康について深く学ぶことができるための指導の工夫について研究を進めることとした。

II 研究構想図

教育基本法・学校教育法・学習指導要領

保健体育科の目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

保健体育科の課題

- ・運動をする子供とそうでない子供の二極化傾向がみられる。
- ・体力の低下には歯止めが掛かっているものの、依然として低い状況である。
- ・主体的に健康課題への解決に取り組む学習が不十分である。

東京都の現状と取組

- ・東京都統一体力テストを開始した平成 23 年度と比較すると、全学年ともに向上傾向にあり、体力合計点平均値も上昇している。
- ・中学 2 年生の体力合計点平均値は男女ともに最低水準であったが、平成 28 年度は、男女ともに順位を上げている。特に、女子は、過去最高の順位となっている。

研究主題 運動の楽しさや必要性を実感させ、関心・意欲を引き出す指導の工夫

目指す生徒像

- ・体を動かすことの楽しさ・達成感を感じ、また運動の必要性を知ること、生涯にわたり、自身にふさわしい運動を実践することのできる生徒
- ・自ら身体に関心を持ち、仲間と協力し、認め合いながら学びを深めることができる生徒

研究の仮説

学習カード及び I C T 機器の活用により、技能のポイントが分かりやすくなり、運動への主体性が引き出されるとともに、肯定的な言葉を用いた対話的な学習場面を設定することで、運動に対する楽しさや必要性を実感させ、関心・意欲を引き出すことができ、自ら運動に親しむ態度を身に付けさせることができるだろう。

研究の内容

- 1 基礎研究
 - (1) 新中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省 平成 29 年 7 月）
 - (2) アクティブプラン to 2020（東京都教育委員会 平成 28 年 1 月）
- 2 調査研究
 - (1) 運動の楽しさや必要性に対する意識について
 - (2) 体育の授業を楽しくするための手だてや言葉掛けについての意識について
- 3 検証授業
 - (1) それぞれの所属校における授業実践
 - (2) 各校の成果と課題を分析し、指導方法を改善した検証授業

Ⅲ 研究の視点

- 1 運動の楽しさや必要性について、運動が苦手な生徒の意識を明らかにする。
- 2 運動が苦手な生徒にとって、技能のポイントが分かりやすい教材を開発する。
- 3 運動が苦手な生徒にとって、仲間との協働的な学びがしやすい指導方法を開発する。

Ⅳ 研究仮説

学習カード及びICT機器の活用により、技能のポイントが分かりやすくなり、運動への主体性が引き出されるとともに、肯定的な言葉を用いた対話的な学習場面を設定することで、運動に対する楽しさや必要性を実感させ、関心・意欲を引き出すことができ、自ら運動に親しむ態度を身に付けさせることができるだろう。

Ⅴ 研究方法及び内容

1 基礎研究

(1) 新中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省 平成 29 年 7 月）

ア 保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」

保健体育科においては、次の視点等を踏まえて授業改善を行うことにより、育成を目指す資質・能力を育んだり、体育や保健の見方・考え方を更に豊かなものにしたりにつなげることが大切である。

- ・運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。
- ・運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組むなどの対話的な学びを促すこと。
- ・それらの学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを促すこと。

イ 体育の見方・考え方について

体育の見方・考え方とは、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさと喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適正等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」とある。

運動をするだけではなく、仲間同士でプレーを見合って助言をしたり、競技の特性や歴史について学んだりすることにより、運動やスポーツへの関心・意欲が高められるような指導の工夫が必要である。

(2) アクティブプラン to 2020-総合的な子供の基礎体力向上方策（第三次推進計画）-

（東京都教育委員会 平成 28 年 1 月）

東京都統一体力テスト結果によると、生徒の運動意欲と体力合計点の関係には、以下の三点の傾向がある。

- ・体育の授業が楽しいと思う生徒ほど、体力合計点が高い傾向がある。

- ・運動やスポーツが好きな生徒ほど、体力合計点が高い傾向がある。
- ・日頃から運動している生徒ほど、体力合計点が高い傾向がある。

このことから、運動が苦手な生徒に対して、運動は楽しいものとして好きになるように興味をもたせ、運動習慣を形成させることが体力向上に有効であると考えられる。

2 調査研究

(1) 目的

運動の経験や得手不得手、運動の必要性などにおける生徒の意識を把握・分析することで、運動に対する意識を高めるための手だてを発見し、実践に役立てられるよう考察する。

(2) 対象

教育研究員の所属校に在籍する生徒 404 名

第1学年	男子	64名	女子	50名
第2学年	男子	106名	女子	54名
第3学年	男子	81名	女子	49名

(3) 方法

単元の前後で質問紙による調査を実施し、各項目に対して、「4 そう思う」、「3 少し思う」、「2 あまり思わない」、「1 そうは思わない」の中から自分が最もあてはまる内容を選択する。また、質問項目にあてはまるものを全て選択するものや、自由記述による項目も取り入れ、調査した。

(4) 内容

- ・運動の楽しさや必要性に対する意識
- ・体育の授業を楽しくするための手だてや言葉掛けについての意識

(5) 結果

ア 運動の楽しさについての意識

「運動をすることが楽しいと思いますか」の質問に対し、「あまり思わない」「そうは思わない」と答えた生徒は61名であり、全体の15.1%であった。

「保健体育の授業で『楽しくない』と感じた場面はどんなときですか？（複数回答可）」の質問に対する上記61名の回答を図1に示している。

「頑張ってもできるようにならないとき」及び「どのように動けばよいか分からないとき」の技能の習得に関することが共に約30%で最も多かった。

次いで「友達の前で失敗するとき」が22.0%を占めている一方、友達との関わりについての「友達と一緒に運動しているとき」は3.5%と最も少なかった。

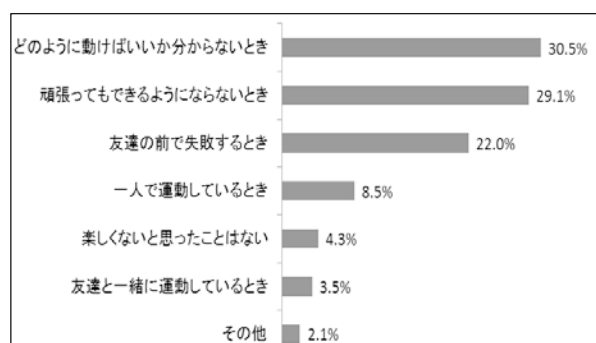


図1 保健体育の授業で「楽しくない」と感じた場面はどんなときですか？（複数回答可）

イ 運動の必要性についての意識

「運動が必要だと思いますか」の質問に対し、「必要だと思わない」と答えた生徒は25名であり、全体の6.2%であった。

この25名のうち64.0%の16名が、「運動をすることが楽しいと思いますか」の質問に対し、「あまり思わない」「そうは思わない」としている。

表1 運動の必要性の実感と楽しさの実感との関係

		運動をすることが楽しい	
		そう思う 少し思う	あまり思わない そうは思わない
運動が 必要	そう思う 少し思う	333名	45名
	あまり思わない そうは思わない	9名	16名

ウ 授業を楽しくするための手だてや言葉掛けについて

「保健体育の授業で『楽しい』と感じた場面はどんなときですか。」という質問に対する生徒の回答の上位五つは表2の通りであった。

「友達からどんな言葉でほめられたり励まされたりするとうれしいですか。」の質問に対しては、「『できるよ』、『頑張ろう』などの励ましの言葉」や「『できたね』、『すごいね』など上達を認めてもらえたとき」などが挙げられた。

表2 保健体育の授業で「楽しい」と感じた場面

技術や記録が上達したとき	32.0%
友達と協力して運動しているとき	25.3%
友達からアドバイスをもらったとき	12.9%
先生にコツやポイントを教えてもらったとき	11.2%
友達にアドバイスしているとき	6.2%
その他	12.4%

(6) 考察

運動を楽しくないと感じている生徒の多くが、技能をうまく向上させられないことを要因として挙げている。これらの生徒に対して、運動を楽しく感じさせるためには、授業の中で技能の向上を実感させることが必要である。

「保健体育の授業で『楽しい』と感じた場面」については、全体の32.0%が、技術や記録が上達したときを挙げている。このことから、授業の中で技能の向上を実感させることは、運動を楽しくないと感じている生徒だけではなく、全ての生徒にとって運動への関心・意欲を引き出す上で有効な手だてであると言える。

また、「友達と一緒に運動しているとき」を楽しくないと感じる生徒は少ないが、「友達の前で失敗するとき」を楽しくないと感じる生徒が多いことから、仲間との関わり合うことを求めつつも、その関わり合いの内容が運動の楽しさに影響していることが分かった。生徒同士が協働的に学ぶ場面を設定するとともに、その際は、互いを励まし合ったり認め合ったりすることが大切である。このような協働的に学ぶ場面を充実させるためには、生徒に対し、仲間への肯定的な言葉掛けを理解させ、運動に意欲的な生徒やそうでない生徒が共に安心して活動できるようにする教師の指導が必要である。

3 検証授業

基礎研究及び調査研究を基に指導方法を工夫し、それぞれの所属校において実践授業を一定期間継続して行い、その指導方法の効果を確認する。

さらに、各校の成果と課題を分析しながら指導方法を改善した検証授業を行った。各授業では、研究主題に迫るための手だてとして、以下の三点について指導方法を工夫した。

視点①「言葉掛けの工夫」

生徒同士での肯定的な言葉掛けを促し、互いに学び合える環境を設定する。事前に、仲間から掛けてもらいたい言葉掛けを調査し、それらを学習カードや壁面に掲示することで、授業内で活発な生徒同士での教え合いや励まし合いが生まれるようにした(図2)。

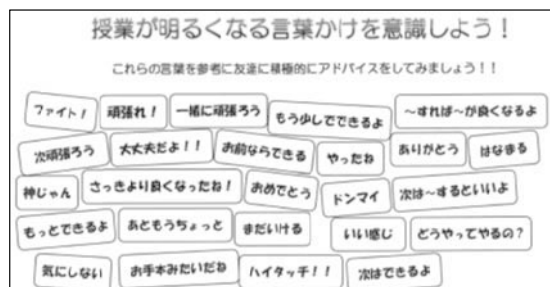


図2 肯定的な言葉掛けの掲示例

視点②「学習カードの活用」

事前に運動の特性やポイントをまとめることで、それらについての理解を深められるようにした。また、学習カードを活用することで、授業内に自己の課題や運動のポイントをいつでも確認できるようにした。さらに、仲間からのアドバイスを記入することで、互いの課題や改善点に気付きやすくなり、生徒同士での対話的な学びを促した。

視点③「ICT機器の活用」

撮影した動画をペアやグループで動画を確認することで、一人では気付かなかった事故の課題に気付いたり、互いにアドバイスをし合う中で、運動の特性やポイントについてより深く理解できるようにした。

(1) 実践授業1

ア 単元名 球技「バレーボール」

イ 実施期間 平成29年9月19日から平成29年10月13日まで

ウ 対象 第1学年

エ 単元の目標

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。また、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。【技能】
- ・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【態度】
- ・特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【知識、思考・判断】

オ 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを守ろうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やチームの課題を見付けている。 ・自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。

カ 研究主題に迫るための手だて

(ア) 視点①「言葉掛けの工夫」

事前調査からも運動が好きではなく苦手な生徒に興味・関心をもたせるためには、教員からの言葉掛けではならず、仲間からの言葉掛けが必要であることが理解できる。また運動が好きで苦手な生徒も運動が好きではなく苦手な生徒に教えることでポイントが整理され自分の技術の向上にも繋がるのが期待できる。そこで仲間から言われて嬉しい言葉をまとめ「魔法の言葉」として配布、掲示した。

(イ) 視点②「学習カードの活用」

教科書や補助教材などの資料から、様々な情報や他者の考えや教えを学習カードにまとめることで、運動の技能ポイントや特性等についての理解を深めた上で授業に臨める。

また、その学習カードを授業中に確認することで、自己の動きに対する新しい気づきや自分の考えをより広げ深めることができると考えた。

(ウ) 視点③「ICT機器の活用」

仲間とタブレット端末を活用し、自己の動きの体のイメージと他者から見た客観的な感想等を共有しながら、動きを修正しようとするのが、課題解決能力や運動への意欲の向上につながると考えた。

キ 単元の指導計画

	学習内容	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・学習の流れ ・用具の扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを守り、場所や用具の安全を確認しながら活動しようとする。【関心・意欲・態度】(学習カード)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的技術練習 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・サーブ 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの学習に自主的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】(観察)
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的技術練習 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・サーブ ○簡易ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付けている。【技能】(観察)
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム別課題練習 ・サーブレシーブ ・スパイク ○簡易ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やチームの技能に応じた課題を見付けている。【思考・判断】(学習カード) ・仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の動きで攻撃を組み立てることができる。【技能】(観察)

第5時	○チーム別課題練習 ・サーブレシーブ ・スパイク ○簡易ゲーム	・仲間と連携して、攻撃を組み立てることができる。【技能】(観察) ・提供された練習例や学習資料などから、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。【思考・判断】(観察)
第6時	○ゲーム	・試合の行い方を理解し、それぞれのゲームに対応したルールを言ったり、書き出したりしている。【知識・理解】(学習カード)
第7時	○ゲーム	・バレーボールで用いられる技術や戦術、作戦の名称やその具体的な行い方や活用方法を言ったり、書き出したりしている。【知識・理解】(学習カード)

ク 本時の展開（7時間中の4時間目）

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (8分)	○整列、挨拶 ○用具の準備 ○準備運動 ○本時のねらいと流れの確認	・出席確認、健康観察を行う。 ・安全に留意しながら行うようにする。	
展開 (32分)	○個人の基礎的な技術練習 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・サーブ練習 ○チーム別練習 ・サーブレシーブ ・スパイク ○簡易ゲーム	・技術のポイントを学習カードで確認しながら練習するように指示する。 ・仲間同士の肯定的な言葉掛けを促すように、それらの言葉の例を掲示しておく。 ・ゲーム中のよいプレーや明るい前向きなチームの言葉掛けがあった場合は、全体に分かるように賞賛する。	・仲間と連携して、攻撃を組み立てることができる。 【技能】(観察)
まとめ (10分)	○片付け ○振り返り ・学習カードを基に本時を振り返り、個人とチームの成果と課題を記入する。 ・発表 ○本時のまとめと次時の確認	・危険な扱い方をしていないか確認しながら進める。 ・チームの課題をメンバー全員が確認できるよう話し合いながら学習カードに記入させる。 ・各チームのリーダーにチームの反省を発表させ、本日のねらいが達成したところやよかったところを褒める。	・自己やチームの技能に応じた課題を見付けている。 【思考・判断】(学習カード)

ケ 結果

全体に互いを励まし合うような発言が増える様子が見られた。具体的には、「～よりうまくなったよ」などの言葉があり、円陣パスをする際には運動が得意な生徒から、運動が苦手な生徒に対して「失敗してもいいよ、俺がサポートに入るから」などの言葉掛けがあった。

コ 考察

バレーボール経験者が発言する意見に流されがちであったが、円陣パスの練習中「ボールを床に落とさない」ことをテーマにそれぞれのチームに課題を提示したところ、初心者の生徒が偶然、落としたいくない一心でボールをキャッチしてしまったことから、キャッチありのルールが定着した。その際、キャッチした初心者の生徒を責めるわけではなく、「落とさなかったいいよ」、「ナイスキャッチ」の一言がその運動が苦手な生徒を勇気付ける言葉となった。

(2) 実践授業 2

ア 単元名 陸上競技 「ハードル走」

イ 実施期間 平成 29 年 9 月 26 日から平成 29 年 10 月 19 日まで

ウ 対 象 第 2 学年

エ 単元の目標

- ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができる。【技能】
- ・積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守ろうとすること、役割を果たそうとすることなどや、事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができる。【態度】
- ・特性や成り立ち、技能の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【知識、思考・判断】

オ 単元の評価規準

ア 運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。・仲間の学習を援助しようとしている。・健康・安全に留意している。	<ul style="list-style-type: none">・課題に応じた練習方法を選んでいる。・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。	<ul style="list-style-type: none">・リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。	<ul style="list-style-type: none">・陸上競技の特性や成り立ちについて学習した具体例を挙げている。・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。

カ 研究主題に迫るための手だて

(ア) 視点①「言葉掛けの工夫」

事前調査の結果から「仲間に励まされると頑張れる」と答えた生徒が多くいたことから、学習カードに「仲間から（教員から）かけられて嬉しい言葉」を記入し、ペアやグループでの学習活動に活用する。学習活動の中でアドバイスする際に言葉掛けをするよう指導し、集団で学習することの楽しさやできた時の喜びを感じられる授業を意識した。

(イ) 視点②「学習カードの活用」

技能のポイントをイラストに記述し、学習カードを教科書代わりにして、授業の合間に手軽に確認ができるようにすることで、アドバイスの仕方を身に付けたり、自分自身の知識を身に付けたりすることができると考えた。

(ウ) 視点③「ICT機器の活用」

タブレットを利用し、ハードリングの場면을撮影してフォームを確認する。学習カードのイラストだけではイメージがでない部分も、映像で確認することによってイメージがわき、よりアドバイスがしやすくなると考えた。また、自分のフォームを自分で確認することができ、自らの課題達成に向けての手だてとなると考えた。

キ 単元の指導計画

	学習内容・学習活動	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	・オリエンテーション ・50mハードル走計測	・ハードル走の特性や学習の進め方について理解している。【知識・理解】(学習カード)
第2時	・ハードル走の基本技能	・インターバルを一定のリズムで走ることができている。【技能】(観察)
第3時	・ハードル走の基本技能	・自己の課題を把握することができている。【思考・判断】(観察)
第4時	・技能向上、課題解決のための練習	・仲間の動きを見てアドバイスしようとしている。【関心・意欲・態度】(観察)
第5時	・技能向上、課題解決のための練習	・仲間の動きを見て的確なアドバイスができている。【思考・判断】(観察、学習カード)
第6時	・記録会	・勝敗や記録にかかわらず、仲間同士で励まし合いながら活動しようとしている。【関心・意欲・態度】(観察)

ク 本時の展開 (6時間中の5時間目)

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	○整列、挨拶 ○本時のねらいと流れの確認 ○用具の準備 ○準備運動	・出席確認、健康観察を行う。 ・安全に留意しながら行うようにする。	
展開 (30分)	○技能向上、課題解決のための練習 <個人練習> ・インターバルをリズムカルに走ることができているか。 ・遠くから踏み切り、勢いよくハードルを越しているか。 ・抜き足の動きを正しくできているか。 <グループ練習> ・三人程度のグループを作り、タブレット端末を用いて、互いの動きを確認し、助言し合いながら練習する。	・学習カードに各自が記入した動きのポイント等を適宜確認しながら練習するよう指示をする。 ・必要に応じ、撮影者には、動きのポイントが分かりやすく撮れる場所を指示する。 ・タブレットを見ながらの生徒同士の話し合いは短時間で繰り返し行えるようにする。	・仲間の動きを見て的確なアドバイスができている。 【思考・判断】 (観察、学習カード)
まとめ (10分)	○片付け ○振り返り ・学習カードを基に本時を振り返り、次回の練習課題を記入する。 ○本時のまとめと次時の確認	・仲間同士で協力して行うよう役割分担させる。 ・具体的に課題設定できるように、適宜発問をし、本時について深く振り返るようにする。	

ケ 結果

生徒からは、「仲間からアドバイスされたり、教えてもらったりすることでできたことが嬉しかった」、「応援されて頑張ることができた」、「アドバイスし合うことで、どこができていないのかが分かるので良かった」などの感想が聞かれた。教師に「ここはどうしたらいいのか」と質問したり、「どこを直せばいいのか分からないから見てほしい」とつまづきを解消しようとしたりするなど、積極的に学ぼうという姿勢が身に付いてきた。

さらに、学習カードに技能のポイントを記述することで、「何が大切なのか」、「どこに注意したらよいか」なども学ぶことができ、知識を身に付けることに効果的であった。そのため、実際に仲間の動きを見て具体的なアドバイスをすることもできるようになったり、自分の課題や技能の上達したこと見付けたりすることができるようになったのは大きな成果でもあった。

また、ICT（タブレット）を積極的に活用した生徒からは「細かいフォームが確認できて、何を練習すればいいのかを把握できた」、「自分ではできていたと思っていでも、実際に見ると違う部分もあり、先生がずっとアドバイスしてくれていたことが分かった」などの感想を聞くことができた。

苦手意識があった生徒からは「仲間と一緒に頑張れたことで楽しく授業を受けることができた」と関心・意欲の向上に対しての効果はあったと感じる。また、ICTの活用をしたことによって「今までどうしてできなかったのかや、何が悪かったかなどが解消された気がして、また頑張ろうと思うことができた」という発言もあり、意欲の向上において成果があったと言える。

コ 考察

今回の検証授業から、①仲間への言葉掛けは学習意欲の向上にも繋がること、②技能のポイントを記述することによって、アドバイスの仕方や技能に対する知識が身に付いたこと、③ICT機器を活用したことで、課題解決へ手がかり分かりやすくなったことなどの、三つのことが言える。

その一方で、学習カードやICT機器は上手に活用しなければ効果が不十分になることも実感した。学習カードの技能のポイントを記述する時間がうまく確保できずに中途半端なままになってしまったものがあったことが課題である。

(3) 実践授業 3

ア 単元名 球技「バレーボール」

イ 実施期間 平成 29 年 10 月 2 日から平成 29 年 10 月 20 日まで

ウ 対 象 第 3 学年

エ 単元の目標

- ・ ネット型について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。(技能)
- ・ ネット型に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることや健康・安全に気を配ることができるようにすること。(関心・意欲・態度)
- ・ ネット型の特性や成り立ち、技術の名称や行い方を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

オ 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。	・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切な関わり方を見付けている。	・ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間との連携した動きを身に付けている。	・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。

カ 研究主題に迫るための手だて

(ア) 視点①「言葉掛けの工夫」

事前調査で自分が仲間からアドバイスや励まされて嬉しい言葉を記入させ、それを集約し掲示することで、仲間への肯定的な言葉掛けを理解させる。

このことにより、不安や心配を軽減したり、失敗したときに安心できたりするような言葉掛けにより意欲が高まるきっかけとする。

(イ) 視点②「学習カードの活用」

技能のポイントの確認や自己の課題設定について、学習カードに具体的に記入することで理解を深めやすくする。

(ウ) 視点③「ICT機器の活用」

仲間同士で振り返ることで前回よりもできるようになったことや改善点を指摘し合い、ほめたり、アドバイスしたり、協力して課題解決に取り組めるようにする。

キ 単元の指導計画

	学習内容・学習活動	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	○オリエンテーション	・バレーボールの特性や成り立ちについて理解している。【知識・理解】(学習カード)
第2時	○基本技能 ○チーム分け ○簡易ゲーム	・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。【知識・理解】(学習カード) ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】(観察)
第3時	○オーバーハンドパス ○アンダーハンドパス	・基本的技能のポイントを理解している。【知識・理解】(学習カード)
第4時	○オーバーハンドパス ○アンダーハンドパス ○サーブ ○サーブレシーブ	・学習カードや映像を見て、自己の課題を発見することができる。【思考・判断】(観察) ・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)
第5時	○スパイク練習 ○三段攻撃	・仲間と互いに教え合ったり、チームの動きを確認したりできている。【思考・判断】(観察) ・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)
第6時	○チーム練習 ○ゲーム	・仲間と協力して作戦などを話し合うことができる。【思考・判断】(観察)
第7時	○リーグ戦	・フェアなプレイや仲間への励ましを大切にして活動しようとしている。【関心・意欲・態度】(観察)
第8時	○リーグ戦	・作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。【関心・意欲・態度】(観察)

ク 本時の展開 (8時間中の4時間目)

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	○整列、挨拶 ○用具の準備 ○準備運動 ○本時のねらいと流れの確認	・出席確認、健康観察を行う。 ・安全に留意しながら行うようにする。	
展開 (30分)	○前時の復習 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ○サーブ ・アンダーハンドサーブ ・サイドハンドサーブ ○サーブレシーブ	・前時までに書いてある技能のポイントを学習カードで確認しながら練習するように指示する。 ・グループに1台のタブレットを渡し、サーブの打ち方を録画させ、互いに確認しながら助言し合えるようにする。 ・生徒同士での肯定的な言葉掛けがされるように壁面に掲示しておく。	・学習カードや映像を見て、自己の課題を発見することができる。【思考・判断】(観察)
まとめ (10分)	○振り返り ・学習カードを基に本時を振り返り、次回の練習課題を記入する。 ○本時のまとめと次時の確認	・具体的に課題設定できるように、適宜発問をし、本時について深く振り返るようにする。	・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)

ケ 結果

生徒同士の言葉掛けにも習熟度によって掛けられる言葉が違う場合や共通の言葉掛けで互いに話し合い、励まし合う場面が見られた。

単元の目標や歴史・特性などを1枚の学習カードにまとめておくことで、運動のポイント、自己の課題や改善点が授業の中で分かりやすくなり、運動の苦手な生徒も積極的に取り組めた。

互いに励ましたり、ポイントを伝えようとする気持ちを今までより強く意識して取り組むことで、単元種目の部活動生徒や得意な生徒が仲間に声を掛けたり、質問されたりと対話をする場面が増えた。その結果、チームやペア学習では仲間でボールをつないで、相手コートにボールを運ぶことができ、ラリーを続けることができた。そして、ゲームの中で生徒の声がより多く飛び交い、励ましの言葉や褒める言葉が増えた。

コ 考察

学習カードを一律に取り組ませるのではなく、習熟度によって学習カードの活用方法や活用時間など柔軟に対応する必要があると考える。

学習カードやICT機器を用いて協働的な学びの場を授業の中に取り入れることで、指導者からの指導だけでなく、生徒同士だからこそできるアドバイスや、仲間を認め合う姿勢を培うことができた。

(4) 実践授業4

ア 単元名 陸上「走り幅跳び」

イ 実施期間 平成29年10月31日から平成29年12月7日まで

ウ 対象 第3学年

エ 単元の目標

- ・自己の課題を把握し改善したり、記録に挑戦したりして、技能や記録を高める。【技能】
- ・協力して励まし合いながら学習を進め、公正な態度を大切にして、健康・安全に留意した活動ができる。【態度】
- ・課題の解決を目指し、練習や競技の仕方を工夫することができる。【知識、思考・判断】

オ 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。・分担した役割を果たそうとしている。・仲間の学習を援助しようとしている。・健康・安全に留意している。	<ul style="list-style-type: none">・運動の行い方のポイントを見付けている。・課題に応じた練習方法を選んでいる。・仲間と協力する場面で分担した役割に応じた活動を見付けている。	<ul style="list-style-type: none">・スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none">・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

カ 目標を達成するための手だて

(ア) 視点①「言葉掛けの工夫」

グループ学習の中で互いが声をかけ合う協働的な学習により、自分や仲間の課題が見える。また、事前調査では、「さっきよりよくなった」などの前より上達していることを示してくれる言葉掛け、「できる」や「大丈夫」などの不安や心配を軽減したり、安心したりできるような言葉掛けにより、運動への意欲が高まると考えた。また、「仲間から掛けられたら嬉しい言葉」を掲示することで、仲間への言葉掛けのヒントとした。

(イ) 視点②「学習カードの活用」

事前に、技能のポイント、歴史や特性などを記入させることで、授業中でもそれらを確認しながら運動することができ、自己の課題を発見したり、即時的に解決したりするためのツールになる。

技能のポイントの確認や自己の課題設定と振り返り、グループ学習の時の課題や反省などの共有に活用した。学習の課題やその日の記録だけでなく、仲間や教員からの言葉掛けをアドバイスの欄に記入することで自分の課題を振り返り、学びが深まるようにした。

(ウ) 視点③「ICT機器の活用」

各グループ1台、タブレット端末を使用して実際に自分が跳んでいる姿を確認しながら学習することで、自分の試技を客観的に確認しながら、仲間とともに振り返りの学習ができる。

キ 単元の指導計画

	学習内容・学習活動	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	○オリエンテーション ○基礎練習 ・踏み切り前のリズム ・振り上げ足の引き上げ ・脚を前に出す着地動作	・運動の特性などについて、学習した具体例を挙げている。【知識・理解】(学習カード)
第2時	○基礎練習 ・踏み切り前のリズム ・振り上げ足の引き上げ ・脚を前に出す着地動作	・仲間の動きをよく観察し、アドバイスをしようとしている。【関心・意欲・態度】(観察) ・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)
第3時	○課題別練習 ・自己の課題に応じた練習	・仲間の動きをよく観察し、的確なアドバイスができています。【思考・判断】(観察、学習カード) ・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)
第4時	○課題別練習 ・自己の課題に応じた練習 ○測定	・スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。【技能】(観察)
第5時	○記録会	・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。【関心・意欲・態度】(観察)

ク 本時の展開（5時間中の2時間目）

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 （7分）	○整列、挨拶 ○本時のねらいと流れの確認 ○準備運動	・出席確認、健康観察を行う。	
展開 （33分）	○基礎練習 ・踏み切り前のリズム ・振り上げ足の引き上げ ・脚を前に出す着地動作	・グループに1台ずつタブレット端末を使用して、試技の様子を互いに録画し、各自の課題を発見したり助言し合ったりするようにする。	・仲間の動きをよく観察し、アドバイスをしようとしている。 【態度】（観察）
まとめ （10分）	○振り返り ・学習カードを基に本時を振り返り、次回の練習課題を記入する。 ○本時のまとめと次時の確認	・具体的に学習カードへ記入できるように、適宜発問をし、本時についての振り返りを深める。	・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。 【知識・理解】 （学習カード）

ケ 結果

仲間同士での言葉掛けについては、互いを高め合うような肯定的な言葉を生徒達自身が考え、伝え合うことができた。仲間の試技をよく観察し、その仲間の一番よい状態が理解できていることからこその言葉である。

また、学習カードに記入するアドバイスの欄も具体的に次回に向けての課題の書き方や課題の設定にも効果が表れた。学習カードにアドバイスの欄を作成したことにより、表3のように、感想に書く内容がより深い内容となり、気づきを記入する生徒が増えた。

表3 学習カードへの具体的な記述

日付	自己の課題	目標	友達からのアドバイス	感想
11/28	・目標を越す！ ・助走の歩数を気にしないで跳ぶ！	ベスト：340 cm 目標：+18 cm	「足を高く上げる。そして、踏み切り足を引き寄せる。」 「腕を振り上げて、高く跳ぶといいよ。」	今日は、助走の歩数や位置を気にせずにとただひたすら跳ぶことを意識したら、298 cm→301 cm→310 cm→340 cmと、回数を重ねるたびに記録が伸びた。今日の授業で助走が足りないことに気が付いたので、次回は距離を17mにしたい。

タブレット端末に関しては使用したい時に自分達で「撮ろうか」「撮って」など声を掛け合い積極的に使用していた。仲間と撮影した動画を確認し、良かった所や課題点を確認し合う学習がみられた。また、技能のポイントを記入した学習カードも今まで通りに活用していたが、若干ではあるが、技能のポイントを学習カードで確認する行動が増えた。

コ 考察

事後調査の生徒の自由記述欄には、「学習カードを使用することは、何よりも授業の効率が

よくなる」「アドバイスを言い合う仲間がいると授業が楽しい」「運動が苦手な人でも頑張りや考えを評価してくれる学習カードの存在がありがたい」「自分に合った目標に向けて努力することで、可能性を感じることができる」などの感想があった。

学習カードを上手く活用することは、仲間とのコミュニケーションが成立し、そこから協働的で深い学びを促すことができる。仲間との学習や言葉掛けは、運動が苦手な生徒にとって励みになり、運動に対する楽しさを実感できるとともに、仲間や教員からの様々なアドバイスにより目標の設定の仕方がより明確になり、深い学びにつながったと考える。

(5) 実践授業 5

ア 単元名 陸上競技「走り幅跳び」

イ 実施期間 平成 29 年 11 月 13 日から平成 29 年 12 月 6 日まで

ウ 対象 第 2 学年

エ 単元の目標

- ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができる。【技能】
- ・助走スピードを生かして素早く踏み切り、より遠くへ跳ぶことができる。【技能】
- ・学習に積極的に取り組み、ルールやマナーを守ること、分担した役割を果たすことなどや、健康や安全に気を配ることができる。【態度】
- ・技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。【知識、思考・判断】

オ 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ・分担した役割を果たそうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の行い方のポイントを見付けている。 ・課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・仲間と協力する場面で分担した役割に応じた活動を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。

カ 研究主題に迫るための手だて

(ア) 視点①「言葉掛けの工夫」

仲間へ具体的なアドバイスをすることで、自分自身も種目の特性をより深く理解できるようにする。事前調査で「友達からどんな言葉でほめられたり励まされたりするとうれしいですか」という質問に対して生徒から実際に挙がってきた言葉を学習カードに記載し、さらに拡大したものを見やすい場所に掲示した。肯定的な言葉が飛び交う雰囲気を作ることで、運動が苦手な生徒や嫌いな生徒も、のびのびと学習に取り組むことができる。

(イ) 視点②「学習カードの活用」

授業の記録欄に教員や仲間からのアドバイスを記入する欄を設け、ペア活動の際に必ずアドバイスを記入させることで、学習カードを生徒同士のコミュニケーションツールとして活用し、協働的な学びを促す。

(ウ) 視点③「ICT機器の活用」

タブレット端末で録画した映像を用いて、各自の動きを確認することで、フォームの改善点に自ら気づきやすいようにした。

キ 単元の指導計画

	学習内容・学習活動	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	○オリエンテーション ○基礎練習 ・スピードを維持した踏み切り	・運動の特性などについて、学習した具体例を挙げている。【知識・理解】(学習カード)
第2時	○基礎練習 ・自己に適した距離と歩数の助走 ・流れの中での着地 ・踏切線の合わせ	・仲間の動きをよく観察し、アドバイスをしようとしている。【関心・意欲・態度】(観察) ・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)
第3時	○課題別練習	・助走スピードを維持したまま、走り抜けるように踏み切ることができる。 【技能】(観察)
第4時	○課題別練習 ○測定	・仲間の動きをよく観察し、的確なアドバイスができています。【思考・判断】(観察、学習カード) ・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。【知識・理解】(学習カード)
第5時	○記録会	・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。【関心・意欲・態度】(観察)

ク 本時の展開（5時間中の4時間目）

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (7分)	○整列、挨拶 ○本時のねらいと流れの確認 ○準備運動	・出席確認、健康観察を行う。	
展開 (33分)	○課題別練習 ・ペアを決めて、互いの課題や改善点を助言し合いながら練習を進める。 ・アドバイスを互いの学習カードに記入する。 ○測定	・仲間から書いてもらったアドバイスを確認しながら練習を進めるように指導する。 ・測定前に、踏み切りや空中動作のポイントを再度確認してから始める。 ・試技の様子をタブレットで録画し、自身の動きを確認させる。	・仲間の動きをよく観察し、的確なアドバイスができています。 【思考・判断】 (観察、学習カード)
まとめ (10分)	○振り返り ・学習カードを基に本時を振り返り、次回の練習課題を記入する。 ○本時のまとめと次時の確認	・具体的に学習カードへ記入できるように、適宜発問をし、本時についての振り返りを深める。	・次回の課題を適切に理解し、具体的に書き出している。 【知識・理解】 (学習カード)

ケ 結果

授業が明るくなる言葉掛けの例示をしたことで、仲間を褒める「いいね」「さっきよりよくなったよ」などの言葉や、仲間の失敗を励ます「ドンマイ」「大丈夫、次はできるよ」などの言葉が飛び交うようになった。失敗を励ます言葉が増えたことで、運動が苦手な生徒や嫌いな生徒も伸びやかに学習に取り組む姿が見られた。

また、運動が苦手な生徒も学習カードに技能のポイントを記入したことで、それをもとに仲間に具体的なアドバイスをする様子が多く見られた。事後調査でも、「アドバイスを意識して跳ぶことができたし、自分の課題や良いところが分かった。」、「具体的にアドバイスをされると次どうすればよいか分かりやすい。」などの意見が多く見られた。

コ 考察

授業の様子や事後調査から、「言葉掛けの工夫」と「学習カードの工夫」は、生徒の運動に対する意欲の向上に効果的であった。しかし、単元によっては学習カードを使用することで運動時間が十分に確保できない場合が考えられる。学習カードの活用時間を短くするための様式の簡略化や内容の精査を今後も検討していく必要があると考えられる。

(6) 検証授業

ア 単元名 器械運動「マット運動」

イ 日時 平成29年11月22日(水)

ウ 対象 第3学年 男子34名

エ 単元の目標

- ・技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技することができるようにする。

【技能】

- ・器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。【態度】

- ・技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【知識、思考・判断】

オ 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を讃えようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって器械運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じて演技するための、自己に適した技を身に付けている。	技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、発表会や競技会の仕方を理解している。

カ 指導観

(ア) 単元観

器械運動は、今できる技をより上手にしていく中で動きが改善されていく喜びを感じたり、新しい技に挑戦することでできるようになるプロセスの喜びを感じたり、また、一つの技や技の組み合わせを発表する中に自己や仲間のよさや可能性を認め合うことで喜びを味わったりすることのできる運動である。

(イ) 生徒観

運動に対する意欲が高く、どのような種目に関わらず積極的に取り組む生徒が多い。運動部活動や外部のクラブに所属する生徒も多く、運動能力の高い生徒がいる一方で、基本的な運動技能が身に付いていない生徒も一定数おり前転等も二極化傾向にある。

マット運動は1年次に取り組んでいる。器械運動の基本的な運動感覚作りや倒立、前転などの主に基本的な技に取り組んだ。

キ 研究主題に迫るための手だて

(ア) 視点①「言葉掛けの工夫」

事前調査を行い、その中で「どんな言葉でほめられたり励まされたりするとうれしいですか」という質問を行った。それらを精選し、「魔法の言葉」を作成し、掲示した。学び合

いの中で、仲間の練習に対しては必ず言葉掛けをすることを確認し、よい言葉が出てこない場合はこの「魔法の言葉」を用いるように伝えた。

(イ) 視点②「学習カードの活用」

単元を通じて学習カードを使用し、授業を行った。「授業の記録」をまとめの時間に行い、気付いたことや感想とともに授業内での仲間からもらったアドバイスを記入していくようにした。中面に技のイラストを載せ、練習で気付いたことは何でもよいので書くように伝えた。

(ウ) 視点③「ICT機器の活用」

自分や仲間の演技を撮影し、その映像を見ながら教え合いが活発になるようにタブレットを用いた。さらに電子黒板を使い、模範となる映像が見られる環境を設定した。

ク 単元の指導計画

	学習内容・学習活動	学習場面に即した具体的な評価規準
第1時	○オリエンテーション ・単元のねらい ・器械運動の特性と歴史 ○基本技の復習 ・倒立	・技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。【知識・理解】(学習カード)
第2時	○基本技の復習 ・倒立、ブリッジ	・器械運動の学習に自主的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】(観察) ・器械運動に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 【知識・理解】(学習カード)
第3時	○基本技の復習 ・前転、後転、側方倒立回転	・自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方の改善すべきポイントを見付けている。 【思考・判断】(観察)
第4時	○倒立練習(課題別学習) ・倒立 ・倒立ブリッジ ・前方倒立回転 ・倒立ひねり ○レベルアップタイム ○組合せ技を考えよう	・健康・安全を確保している。 【関心・意欲・態度】(観察) ・自己の技能・体力の程度に応じて、目指す技や技の組み合わせ方を見付けている。 【思考・判断】(学習カード) ・基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。【技能】(観察)
第5時	○倒立練習(課題別学習) ・倒立 ・倒立ブリッジ ・前方倒立回転 ・倒立ひねり ○レベルアップタイム ○組合せ技に挑戦しよう	・互いに助け合い教え合おうとしている。 【関心・意欲・態度】(観察) ・自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。【思考・判断】(観察、学習カード) ・基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。【技能】(観察)
第6時	○倒立練習(課題別学習) ・倒立 ・倒立ブリッジ ・前方倒立回転 ・倒立ひねり ○レベルアップタイム ○組合せ技を高めよう	・自己の責任を果たそうとしている。 【関心・意欲・態度】(観察) ・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 【知識・理解】(観察、学習カード)

第7時 (本時)	○倒立練習(課題別学習) ・倒立 ・倒立ブリッジ ・前方倒立回転 ・倒立ひねり ○レベルアップタイム ○組合せ技を究めよう	・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 【思考・判断】(観察、学習カード)
第8時	○発表会に向けての練習 ○発表会	④発表会や競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。【知識・理解】(学習カード)

キ 本時(第7校時/8時間)

(ア) 本時の目標

- ・自己や仲間の課題に応じた技の改善すべきポイントを見付け、指摘できるようにする。

【知識、思考・判断】

(イ) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 (7分)	○整列、挨拶 ○準備運動 ○本時のねらいと流れの確認 ○運動感覚作り、倒立練習	・出席の確認、健康観察を行う。 ・目線や姿勢などについて言葉掛けを行い、意識をさせる。	
展開 (35分)	○レベルアップタイム ○組合せ技 (接転、ほん転、平均立ちをそれぞれ含め、五つの技で組み合わせる)	・プレイヤー、コーチ、撮影者と役割分担し、演技に対して必ず声を掛けるように伝える。 ・練習での気付きや良いアドバイスを学習カードに記入するよう促す。 ・練習中は巡視をし、助言を行う。 ・組合せ技のポイント(つなぎやポーズなど)について再度説明を行う。 ・プレイヤー、コーチ、撮影者と役割分担し、演技に対して必ず声を掛けるように伝える。 ・練習での気付きやよいアドバイスを学習カードに記入するよう促す。 ・練習中は巡視をし、助言を行う。	・仲間と学習する場面で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 【思考・判断】 (観察、学習カード)
まとめ (8分)	○片付け ○整列、本時の振り返り ○本時のまとめと次時の確認	・協力して行うように伝える。 ・練習での気付きや変容について学習カードに記入させる(発表させる)。 ・本時の振り返り、次時の連絡を行う。	

ケ 結果及び考察

レベルアップタイムでは、自分の課題に応じた技を練習する時間を設けた。技の習得状況別にグループを分け、コーチ、プレイヤー、撮影者の三つの役割分担で練習を行った。同程度の習得状況にある仲間と練習するで、それぞれが積極的に練習し発言しやすい環境となり、仲間との教え合いを活発に行うことができた。

(ア) 言葉掛けの工夫

どのような言葉をかけてよいのか分からない生徒にとっては、「魔法の言葉」のような言葉掛けの例が掲示してあると、仲間との励まし合いを活発にする一助となった。

(イ) 学習カードの活用

単元の前半では、練習中の気付きなどを学習カードに記入することが少なく、感想のような内容が多かった。

しかし、授業の回を重ねるうちに技能のポイントについての理解が深まり、練習中に自分の気付いたことを記入することが増えてきた。このことから、学習カードを効果的に活用するには、記入の仕方及び一定程度の器械運動についての知識や理解が必要である。

なお、事後調査では90%以上の生徒が「学習カードは必要」と感じていることが分かった。

(ウ) ICT機器の活用

単元の前半は「たくさん練習をしたい」という生徒が多く、ICT機器を使わずに練習ばかりする様子が目立ったが、単元の中盤になると「なぜうまくいかないのか」と感じる生徒がタブレットを用いて互いに撮影をし合ったり、模範映像を見て、動きのポイントを確認したりする場面が増えてきた。撮影をする際には、「どのようなところを見るのか」、「立ち位置をどうするか」など丁寧に説明し、活用させる必要がある。

VI 研究の成果と課題

1 成果

(1) 運動の楽しさについての意識の変容

事前調査では、61名であった「あなたは運動することが楽しいと思いますか。」の質問に対し、「あまり思わない」及び「そうは思わない」と回答した生徒は、事後調査においては半数以下の30名に減少した。

また、事前調査において「あまり思わない」と回答した生徒が事後調査で「少し思う」又は「そう思う」に、事前調査で「そうは思わない」と回答した生徒が事後調査で「あまり思わない」、「少し思う」又は「そう思う」にと、運動の楽しさについて肯定的に回答が変化した生徒は、59.3%であった（図3）。

これらのことから、本研究で行った指導方法の工夫については、運動が楽しくないと感じている生徒に対し、運動の楽しさを実感させる上で有効であったと言える。

(2) 関心・意欲を高める指導の工夫

ア ICT機器の活用

特に運動が苦手な生徒ほどよく活用している印象を受けた。映像を介して、仲間と見合うことにより自然とコミュニケーションが図れる場面を設定することができた。仲間同士が互いアドバイスをしながら、技能のポイントを再確認することができたり、仲間と共有することができたりするなど、気づきを深めるのに役に立った。

イ 学習カードの活用

回数を重ねるうちに、授業の中で技能のポイントを書き込む姿が多く見られるようになり、自己の課題や仲間への助言が具体的になってきた。

(3) 協働的な学びを深める指導の工夫(仲間からの言葉掛け)

生徒同士が教え合う場面を授業の中に取り入れることで、教師からの指導だけでなく、生徒同士だからこそできるアドバイスや、仲間を認め合う姿勢の向上にもつながった。

バレーボールの授業では、生徒同士が互いの動きを確認し合い、運動に取り組んでいた。器械運動の授業では、ICT機器を活用し互いを撮り合い、正しく技ができているかを確認し合うことができた。また、学習カードを用いてよりよい動き方を学び、それを基に、自己の画像や動作分析をすることで自己や他者の課題を明確にした。このようなグループ活動によって、互いの課題を共有しアドバイスし合う場面が増え、生徒の意欲向上につながった。

2 今後の課題

本研究では、学習カードが生徒の思考へつながっていったり、ICT機器を活用することが分かりやすい指導というだけでなく、仲間とのコミュニケーションツールとなったりするなど一定の成果があった。しかし、学習カードやICT機器がただ使われるのではなく、どういう意図で使用することが効果的であるかを更に検証していくことが今後の課題である。

また、仲間からの言葉掛けについて検証を行ってきた。励ましや賞賛が有効であることは分かった。それらが積極的に活用できる場面や、それを促す教師の指示方法や教材等についても今後検討していく必要がある。

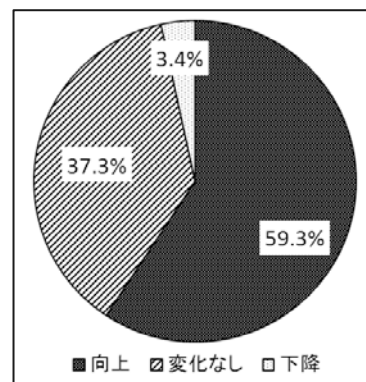


図3 運動の楽しさを感じていなかった生徒の変容

平成 29 年度 教育研究員名簿

中学校・保健体育

学 校 名	職 名	氏 名
港区立赤坂中学校	主任教諭	菅谷 由香
世田谷区立瀬田中学校	主任教諭	◎ 田中 邦慈
世田谷区立船橋希望中学校	教 諭	稲見 拓也
杉並区立天沼中学校	教 諭	河合 健太郎
江戸川区立小岩第二中学校	主任教諭	○ 務台 一芳
三鷹市立第七中学校	教 諭	熊谷 知子

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 楠本 祐也

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

中学校・保健体育

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社